

動物學雜誌第四十六卷第五百五十一號

昭和九年九月十五日

報 文

日 本 産 ム カ デ

(昭和九年八月一日受領)

高 桑 良 興

(岡田彌一郎氏紹介)

・日本産ムカデ類の内オホムカデ科 (Scolopendridae) 及ナガツデムカデ科 (Mecistocephalidae) の諸種につきては曩に雑誌「植物及動物」に掲げたが、今茲に M. 科に屬する *Geophilus*, *Nesogeophilus*, *Thalthybius* の 3 屬 6 種及メナシムカデ科 (Cryptopidae) に屬する *Cryptops* の 1 種につきて記述をする。

(1) *Geophilus proximus* C. L. KOCH ツチムカデ(新稱)

體長は 30 mm. に達す。淡黄乃至黄褐、頭と顎肢は褐。歩肢對 ♀ 55, ♂ 51。頭鞘は略々正方形、全部一様に網目構造をなし、平滑、兩側に數本の刺毛がある。觸角には長刺毛あり、先端ほど短く細く、密になつて居る。額片は一様に網目構造を成し、中央線上に 3 對の刺毛を生ず。上唇の側片には少數の刺毛を房生し、その刺毛は根部に於ては互に殆ど相觸れる事

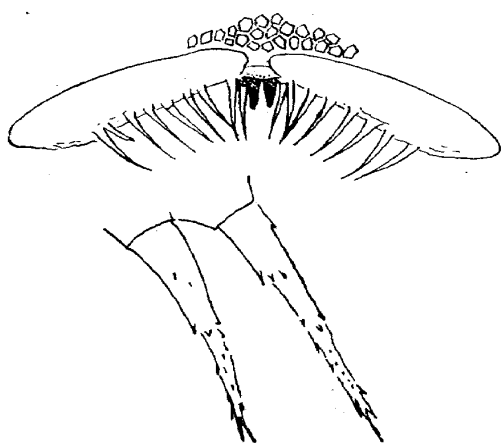


Fig. 1. ツチムカデの上唇及其の刺毛擴大

なく、又根に近い部分より急に細く、先端及中途で屢々細く分岐する。中央片は小さく、2-4 或は 5 齒を有す。第 1 小顎は、2 對の短く、細い、刺毛の多い觸鬚を具へ、その基節に屬するものは特に甚だ短い。第 2 小顎の爪は長く、細く、尖つて、その附近に生ずる刺毛を越へて飛び出て居る。基節は癒着して中央に縫合線を残さず、Chitin 條を缺いて居る。顎肢は閉された時には殆ど額の前縁に達し、基節には齒はなく、Chitin 條は前の方が少し切れて短くなつて居る。端肢の總ての節に齒や瘤起を有せず、爪の根に小瘤起を有す。第 1 胸板に 1 つの小さな腺孔群を

有す。前方の胸板の腺孔群は菱形をなし、前も後も明かに他と境界せられ、又鈍角をなして前後に突出す。腺孔群の幅の最も広い所ではその胸板の幅の半分を占めるが、後方の體節ほど次第に縮まり、遂に約第 20 胸板に至り全く消失する。又前方の胸板はその前縁に於て 1 個の横長い凹みを有し、その凹みの幅は、最も大きい所では、その胸板の幅の $\frac{3}{4}$ 位を占める。胸板の後縁の中央には 1 つの小さな鈍突起がある。而して上記の凹みもこの突起も大約第 2 乃至第 19 胸板に存する。胸板には短小の刺毛を散在する他、兩側に各 2 本の少し長い刺毛を

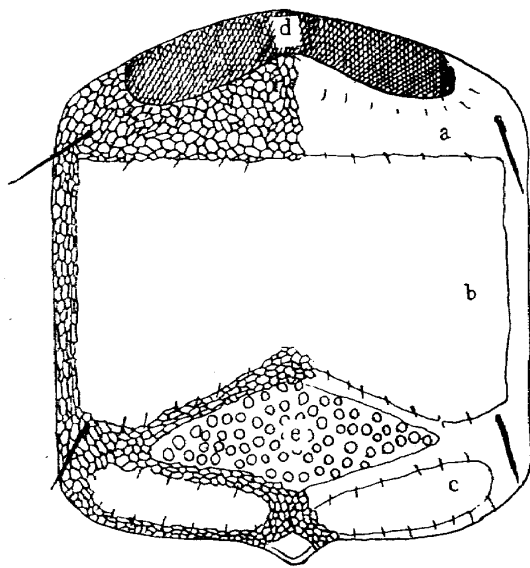


Fig. 2. ツチムカデの第 4 體節の胸板
a, 前胸板部 b, 中胸板部 c, 後胸板部
d, 凹み e, 腺孔群

有する。各胸板に於ける前胸板部 (Prosternit) 及後胸板部 (Metasternit) の大部分は網目構造をなし、中胸板部 (Mesosternit) はその兩側に沿ふ細い一帯の網目構造を有する部分を除いて他にはかゝる構造がない。背板には 2 列の短刺毛を有す。體前方の歩肢には少數の長い剛毛を有するが、特にその前腿節・腿節及脛節の裏面に 2 本の長毛があり、時としてその節の長さよりも長い事がある。最終歩肢體節の胸板は甚だ廣く、その横幅と縦幅との比は 3:2、その前縁の幅は後縁のそれの 2-3 倍あり、後縁は直線狀を成して居る。基節には 5-7 個の大きな腺孔を有し、胸板に近く又そ

の裏の一帯に開孔す。端肢は細く、その前腿節・腿節及脛節の腹面には微毛密生し、端爪がある。端孔はある。

產地：淺蟲(青森縣)。

(2) *Geophilus monoporus* n. sp. ヒトアナツチムカデ(新稱)

體長 18 mm., 體色黃。歩肢對 87。頭鞘は縦横の徑略々同長、額溝はない。體毛は至つて貧で短。觸角は絲狀、第 4 歩肢節の後縁に達す。顎肢は閉じた場合は頭の前縁に達せず、基節の前縁に齒なく、Chitin 條を缺き、端肢の各節には皆齒を缺き、爪の内側は平滑。頸板は廣く、額板は全部一様に網目構造を成し、上脣と額板上縁との間に 3 對の刺毛がある。上脣の中央片は小さく、7 個の小齒を列し、側片は大きくて刺毛を列生す。第 1 小顎に 2 對の大きな觸鬚があり、觸鬚面に小刺毛を密生し、兩基節は全く相癒着す。第 2 小顎の爪は簡單で長く尖り、その附近に生ずる刺毛を越へて抽出し、兩基節は相癒着す。胸板前縁に凹みを持たぬが、前方胸板の幾つかには後縁の中央に後方へ向つて小突起がある。第 1 から略々第 30 胸板までは

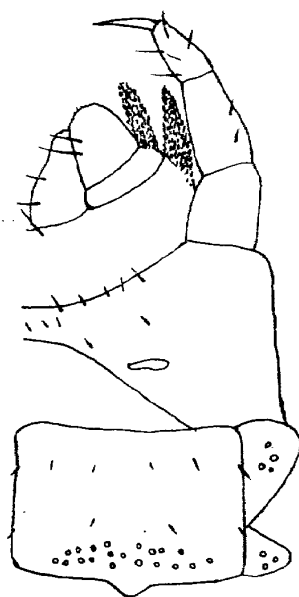


Fig. 3. ヒトアナツチムカデの第1及第2小顎並に第20胸板

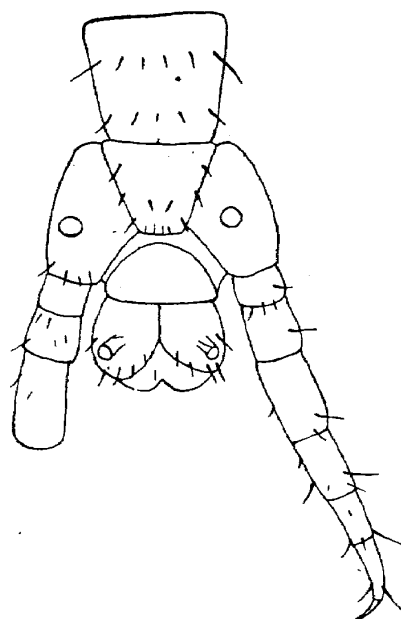


Fig. 4. ヒトアナツチムカデの體末腹面

皆腹腺孔があつて、後縁の前に横に並んでゐる。最終歩肢節の胸板は縦横の径が略々相等しく、後方へ幅が狭くなり、後縁は直線状を成す。基節腺は唯1個で大きく、端肢に爪を有す。背板には2條の縦溝を有す。端孔を有す。

產地：銚子（千葉縣）。

(3) *Nesogeophilus kozuensis* n. sp. シマヂムカデ(新種)

體長 30 mm., 淡黄で多少紅味を帯び、頭と顎肢とは褐。歩肢 55 對。頭鞘は小さく縦横略々同徑、顎肢節の側板と基節板との境界線は頭の側縁に對して斜に走つてゐる。額板は全體一樣に網目構造をなし、約 10 本の刺毛を左右對稱的に生ずる。而して額板上の小圓域 (Clypeal area) はこれを缺いてゐる。上唇の中央片には 3-5 個の齒を列し、側片は平滑であるが、只内側の方に 2-3 の弱い小刺毛を有するものがある。第1小顎には觸鬚を具へざるも、端肢第1小節の外上端に極小の痕跡を有し、その端は細い小刺毛狀をなす。第2小顎の基節には中央縫合線を有せず、全く相癒着し、爪は簡單である。大顎は單に櫛毛の1列を具へるのみ。顎肢は額の前縁に達せず、Chitin 條は完全に見え、跗爪の基部に1鈍齒を具へ、爪の内側は平滑、基節は無齒。頸板は廣く、その後縁は第1背板の前縁より少し廣い。背板に2縦溝を有す。第9-18胸板はその前縁に於て横の凹みを有し、その凹みは前後に短く、横幅はその胸板の横幅の約 $\frac{1}{2}$ に達するものもあるが、後方の胸板ほどそれが次第に小さくなり、斯くして第18胸板では非常に小さくなつてしまふ。それら各胸板の後縁の中央には上記の凹みに相對應する1個の小さな瘤起を有する。最後の歩肢節を除き、その前の各歩肢節には、その胸板に皆腹面腺孔を開き、その腺孔群域は大きく、胸板の後半に存し、その幅の $\frac{3}{4}$ を占め、體の前方の胸板で



Fig. 5. シマヂムカデの第1及第2小顎

はその群域の形は横に長く又稍凸レンズ型をなし、第17節邊から後方は左右1對に分れ、群内腺孔の数は後ほど次第に減少する。最終歩肢節の胸板は、横幅の廣い梯形で、後方は狭く、

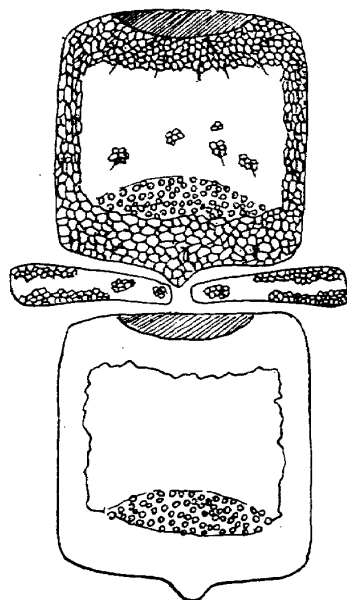


Fig. 6. シマヂムカデの
第13, 14 胸板

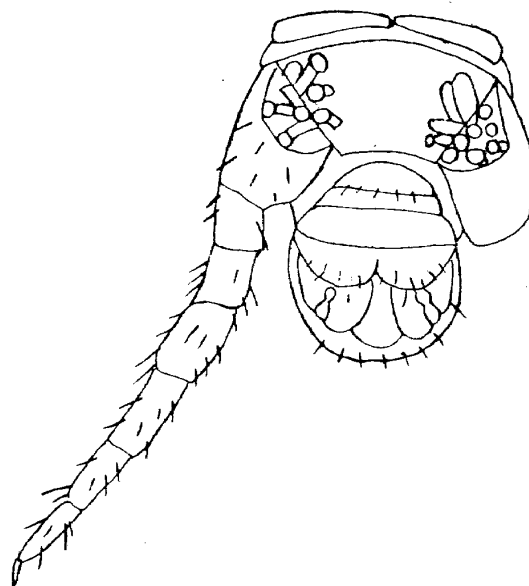


Fig. 7. シマヂムカデの體末腹面

後縁は直線状を成し、約10個の基節腺孔が胸板に近い1つの凹みの内に叢り開いて居り、後方に獨立せる特別の腺孔はない。跗節は2小節に

分れ、前跗節は爪状をなす。♂の終肢は♀より稍々大きく、腹面密毛を生じ、第2跗小節は毛少く、爪は前の歩肢の爪よりやや小である。

產地： 國府津海岸砂地。

備考： 本種に最も似たものと思はれる1種との比較を次に挙げて見よう。

	<i>N. backströmi</i>	<i>N. kozuensis</i>
體 色	フクシン黄	褐 黄
胸板前縁の凹み	胸板の幅の殆ど全部に亘る	{ 胸板の幅の略 $\frac{1}{2}$ に達し、後方ほど狭く、第18に至り極小となる
腹面腺孔群	前方の體節では中央が縫れてゐる	横の凸レンズ状
上 脣	側片に毛を列生	{ 側片平滑なれども、内側の方に2-3個の小刺毛のあるものもある
胸 板	横幅が縦幅より甚だ大	縦の方が横よりやや大

(4) *Nesogeophilus tiosianus* n. sp. チヤウシシマヂムカデ (新稱)

體長 20 mm., 體色黄。歩肢對 58。頭鞘は縦徑が横徑より少しく長く、額溝はなく、額板は全部一様に網目構造を成す。觸角は細く、第4歩肢節背板の後縁に達す。上脣の中央片に4齒があり、側片は無毛。第1小顎に觸鬚はなく、基節は著しく區劃せられる。顎肢は只その跗節に於て1個の小齒を有し、爪は細く内側平滑、閉ぢられた時は丁度額の前縁に達す。Chitin

條は完全。腹面腺孔は第1胸板から最終歩肢節の一つ前の胸板に至るまで存在し、腺孔群は長い横楕圓形で、各胸板の後半約 $\frac{1}{2}$ を占めてゐるが、後部胸板では2個の群に分れてゐる。胸板にはその前縁に近い部にある凹所はない。最終歩肢節の胸板は幅が廣く、梯形をなし、基節腺はその腹面に於て、その胸板に接する部分にある1つの凹みの内に開き、後方に獨立せる別の腺孔はない。端孔を缺く。雄の生殖肢は長く2小節から成つて居る。

產地： 銚子(千葉縣)。

備考： 本動物に最も良く類似して居る種は *N. laticollis* ATT. なれども、本種の歩肢は雌雄共53對なれども *N. l.* は ♂ 51對, ♀ 55對とあり、腹面腺孔群は本種は *N. l.* に比して小さく、*N. l.* では胸板後半の殆ど全部に亘るも、本種ではそんな事はない。又腺孔群が *N. l.* の最後3個の胸板では1群となつて居るが、本種では皆2分してゐる。上唇側片は本種では平滑であるが、*N. l.* では刺毛を列生してゐる。

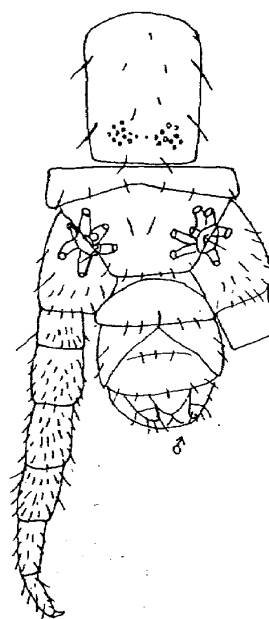


Fig. 8. チャウシシマ
ヂムカデの體末腹面

(5) *Nesogeophilus littoralis* n. sp. イリシマヂムカデ (新稱)

本種の形態はこれの特記せず、次の比較によつて明示することとする。

	<i>N. kozuensis</i> シマヂムカデ	<i>N. littoralis</i> イソシマヂムカデ
體 長	20 mm.	25 mm.
歩 肢 對	♂ 51, ♀ 53	41, 43
體 色	淡黄, 頭部稍々褐	黄赤色(體内に同色の色素を有す), 體前部の節に背面に縦に並行せる2條の濃い赤黄色の條が通り、後方の體節ではそれが次第に見えなくなる
上唇側片	平 滑	刺毛數個
體 刺 毛	背板・胸板及歩肢の刺毛は少く又微小	數多く又長い
胸板前縁の凹み	第 9-18 胸板にある	第 8-13 にある
腹面腺孔	{ 多きは70個に達す, 第1胸板には20個ばかり群を成す	{ 多くも30個計り, 第1胸板には僅かに數個が群を成す
最 終 肢	{ ♂ は ♀ より少しく太く, 腹面密毛を生ず, 爪はその前體節の歩肢の爪と同大	{ ♂ は ♀ より甚しく太く, 腹面の微毛は大いに密生し, 爪は前歩肢の爪に比し頗る小
棲 所	海濱の乾ける砂地の石の下	海岸浪打ち際の石の下
産 地	國府津(神奈川縣)	眞鶴(神奈川縣)

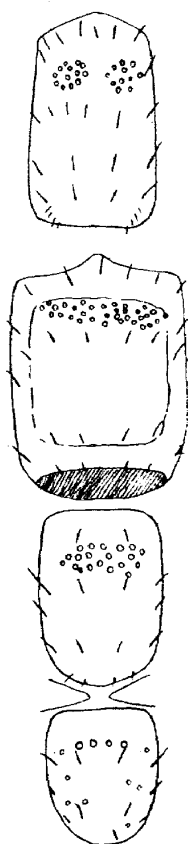


Fig. 10. イソシマヂムカデ
第 1, 2, 3 胸板と最終歩肢節の
一つ前の體節胸板(上より順に)

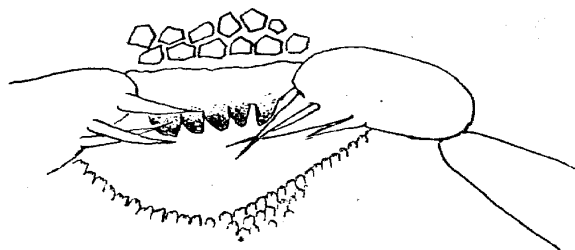


Fig. 9. イソシマヂムカデ上唇

(6) *Talhythius tenuicollis* n. sp.

サキブトヂムカデ (新稱)

體長 40 mm., 體は少し灰紫色を帯びたる 黄褐色。歩肢對 73-87。頭鞘甚小, 略圓いが縦徑は横徑より小, 頭に續く 7-8 節は著しく狭くして頸狀をなし, 第 10 節位より次第に幅廣くなり, 第 35-60 節が最も大きく, 體尾は又狭くなる。觸角は棍棒狀をなし, 末の 6 個の節が膨大し, この 6 個の節の腹面には微細な刺毛が密生し, 背面の毛は餘り密生せず, 第 9 と第 13 節には感覺刺毛 20 個計りを付け, 最末の節は圓錐形を成し, 長さが幅の 1.5 倍あり, 基の方の節々には刺毛が粗生する。上唇は至つて發達せず, Chitin 化する

こと少く, 中央は平滑で少し灣入し, 側方には三角形の尖齒 3 個を着けて居る。大顎の齒は約 9 個。第 1 小顎には觸鬚を缺き, 第 2 小顎の爪には密な櫛毛を有す。顎肢は弱く完全な

Chitin 條を有し, 短くて額の前縁を遠く隔つて位置し, 齒を有せず, 爪は平滑。胸板は横幅より縦が長く, 第 1 と最後の 4 個とを除きビスケット狀又は横橢圓形の腺孔群を有す。その區域はその附近と共に暗紫色の斑點狀をなし, 又少しく高まつてゐるから他の部分より著しく區別せられる。背板に 2 線溝を缺く。最終胸板は可なり後方へ狹窄し後縁は稍丸い。最終歩肢は非常に大きく, その基節に 2 個の大きな腺孔を有するが, それは半ば胸板に蓋はれてゐる。前跗節はない, 端孔もない。

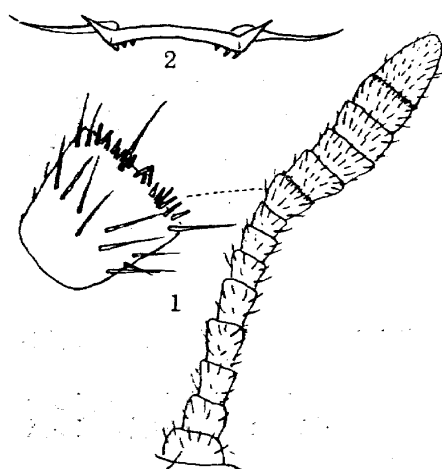


Fig. 11. サキブトヂムカデ 1, 觸角。
別圖は第 9 小節を擴大し感覺刺毛を
明示す。2, 上唇

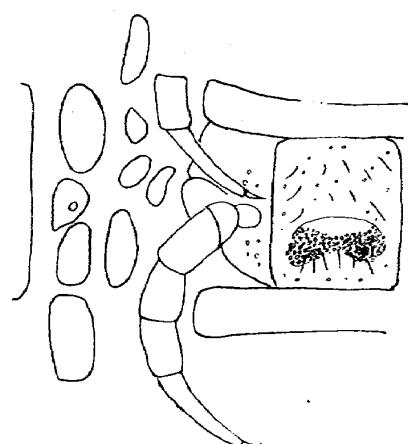


Fig. 12. サキブトヂムカデの第38體節
胸板とその體側を示す

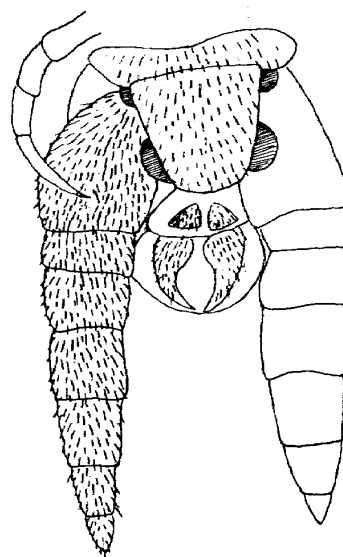


Fig. 13. サキブトヂムカデ
の體末腹面

産地： 東京・鹿児島・志布志・広島。

備考： 本動物に甚だ近似すると思はれるもの2種があり，これらと本種とを比較すれば主なる點は次の通りである。

	<i>T. microcephalus</i>	<i>T. melanostigma</i>	<i>T. tenuicollis</i>
歩肢對	67-79	101	73-87
第2小顎	{ 基節の中央縫合線の痕跡あり	なし	なし
胸板腺孔群	{ 第1と終りの2胸板とになし	同 左	第1と終りの4胸板にない
最終胸板	{ 不等邊四邊形，廣く，後縁は一直線	不等邊四邊形	{ 後方へ可なり狭くなつて，後縁は少し丸い

(7) *Cryptops japonicus* n. sp. ニホンメナシムカデ (新稱)

體長 25 mm. 位，體色黃褐，體面に稍長い刺毛を粗生す。歩肢 21 對。頭鞘は縦横の幅略等しく，表面細縦溝を有せず。眼はない。上面より顎肢の兩外側を僅かに見る事を得。觸角は鞭狀をなし，17 個の小節より成り，粗毛を生ずれども，第3小節の端から第4小節以下粗毛の他に密毛を生ずる。額板は網目構造を成さず，上唇に近くそれに並行して數本，又その中央から頭前縁の中央に至る間に數對の刺毛を生ず。上唇中央に1齒。顎肢の端肢を左右閉鎖して頭の前縁に達せぬ。顎肢基節の前縁は直線に近く，左右に2又は4或はそれ以上の刺毛を生じ齒はない。顎肢内の毒腺は2間節を越へて遙に後方，前腿節の前部に位置す。第1背板(頸板)は廣くて大きく，その前縁は頭鞘の後縁を蓋ふ。第1背板に縦溝はなく，第2背板にもなく，第3背板に稍その痕を認め，第4背板以下に，中央に一つの縦隆起線があり，最終背板にそれらがなく，中央に縦の凹みが1條ある。胸板に十字形を成す線溝があり，その縦の

溝は横の溝より明瞭で長いけれども、胸板の前縁には達せぬ。左右歩肢の前基節(Procoxa)の間を横に亘り、胸板上に後方に彎曲せる横條を有し、これは第18-19胸板までは明瞭で、それ以下は不明瞭である。最終胸板は後方へ斜に少しく狭くなり後縁は弓狀に少しく張り出す。その基側板の後縁は後方へ丸く張り出し、突起を有たぬ。基節腺は40位あり、開孔區域は後縁

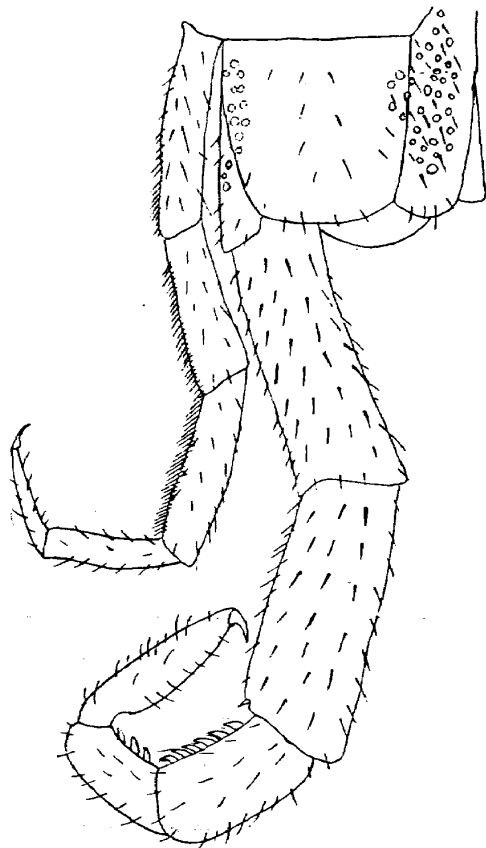


Fig. 14. ニホンメナシムカデの
體の後端の背面

に達せずして、後部約 $\frac{1}{4}$ には腺孔がない。最終胸板の裏にも腺孔が分布して居る。基側板の表面、後縁及腺孔區域に多くの刺毛を生ず。雄の第20歩肢の前腿節、腿節及脛節の裏面は微細の毛が密生してゐる。第1-19歩肢の跗節は唯1節で第20と21では2小節に分裂してゐる。最終歩肢の背面に縦溝はなく、前腿節の背腹兩面に太い刺毛を蓋ひ、刺毛のない區域はない。腿節の端に鋸齒を有することもあるが多くはない。脛節にも端齒がない。脛節に6-7、第1跗節に3-5の鋸齒を有する。

產地：九州小倉。

本動物に最も近似すると思はれる種は *C. doriae* Poc. で、それと本種とを比較すれば、*C. d.* は最終歩肢節基節腺数が約25なるも、本種は40に達し、又この腺孔のない區域は *C. d.* では基側板の $\frac{1}{3}$ であるも、本種では $\frac{1}{4}$ に過ぎず。又 *C. d.* では「最終歩肢前腿節の背面は殆ど無毛で、腹

面に一面に毛を密生してゐる」が、本種では全面一様に長刺毛を蓋ふて居る。以上の諸點が著しい區別であり、尙個體數少く確實の事は述べ難いが、最終歩肢脛節の鋸齒數が *C. d.* では7-8なれども、本種は6-7、第1跗節の鋸齒は *C. d.* では4-5、本種では3-5であり、又顎肢節基節前縁の刺毛も前者は4+4とあるが、本種では單に數本とすべきである。

備考：本種は昭和8年8月九州小倉に於て僅かに5個を得(内♀4、♂1)たるものなれど、多くは不完全なるを憾みとす。九州には宮崎縣青島の神苑に於て本屬のもの2,3を得たるも不完全で檢定するを得ず、然し恐らく別種であるらしい。予は尙朝鮮と滿洲とより得たる2個を有するもこれ亦不完全である。本屬動物は死後最終歩肢を痙攣的に屈曲する故注意して見れば直ちにそれと分るが、一寸見た所では小さなアカムカデと間違ひ易く、折角の珍品を打ち捨てゝ顧みぬ恐れがある。とにかく今日まで我國に *Cryptops* の産する事は報告はされて居らぬやうであり、或は第一の發見にてもやあらうと思ひ見出の如く命名した。